

## 令和5年度 第3回新発田市まちづくり総合計画審議会（会議録）

- 1 開催日時 令和5年9月22日（金）  
開会：午後2時00分 閉会：午後4時20分
- 2 開催場所 新発田市役所別館 2階会議室
- 3 出席者  
新発田市まちづくり総合計画審議会委員  
植田 穰 委員（会長）、岸本 正智 委員（副会長）、樺沢 浩 委員、西村 純子 委員、  
若桑 昭男 委員、早川 英雄 委員、鶴巻 健慈 委員、若林 泰子 委員、萩野 喜弘 委員
- 4 会議に出席した事務局職員等  
みらい創造課（課長、課長補佐、企画政策係長、行革推進係長、ほか4名）
- 5 議題及び会議の公開又は非公開の別  
公開
- 6 傍聴人の数  
5人
- 7 配布資料の名称
  - ・次第
  - ・参考5「新発田市まちづくり総合計画 基本計画 基本目標Ⅱ健康・医療・福祉 施策（案）」
  - ・参考6「新発田市まちづくり総合計画 基本計画 基本目標Ⅱ教育・文化 施策（案）」

### 8 審議の内容

#### （1）開会

##### ○事務局

只今より第3回新発田市まちづくり総合計画審議会を開会したいと思います。なおこの会議は公開となりますので、よろしくお願いいたします。

進行につきましては、次第に沿って進めさせていただきます。

開会に先立ちまして、みらい創造課長樋口より挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

##### ○事務局（樋口課長）

本日は3回目の審議会となります。

これまで「基本構想」の「基本目標」を中心に、将来都市像「住みよいまち日本一 健康田園文化

都市・しばた」の実現に向けました今後8年間の取組方針についてご意見を頂戴して参りましたが、本日は「産業」と「市民活動・行政活動」を主な議題としてご審議をお願いいたします。

各委員からは前回までも多くのご意見をいただき大変ありがとうございます。本日いただいたご意見と併せまして、正副会長において「基本構想」と「基本計画」にご意見を整理させていただき、「基本構想」に関する答申と「基本計画」に関する意見一覧として市長へ手交を行わせていただきます。これまでいただきましたご意見の整理経過をまとめた資料もお手元に配布させていただきましたのでご確認ください。

その後の流れとしましては、庁内の策定委員会において答申の内容を反映させた基本構想最終案を策定し、市議会12月定例会で議決を得たのち、審議会での「基本計画」に関するご意見も反映させた基本計画の策定を進め、来年3月末に公表を予定しております。

ご欠席の委員にもご意見をいただけるようお願いしておりますが、本日が最終回となりますので、各委員の専門的な知見から忌憚のないご意見をいただきますようお願いしまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## (2) 議事

### ○事務局

それでは、ここからの進行につきましては植田会長をお願いいたします。

### ○会長

それでは、次第の「2 議事」に入ります。これまでの繰り返しにはなりますが、本審議会は、二階堂市長より、将来都市像を「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」として、基本構想案の諮問を受けております。

また、総合計画の素案作成を行う策定委員会において、二階堂市長の市政運営の方針として「まちづくりの理念」、「基本目標」、「4つの視点」の構成については決定されており、本審議会の役割は「基本目標」を主な議題として、将来都市像の実現に向けた5つの基本目標の方針を審議してまいります。その審議過程において「まちづくりの理念」や「将来都市像」、「4つの視点」の説明文についても関連するものがありましたら、あわせてご意見をいただければと思います。

本日の議事は基本目標のうち「産業」と「市民活動・行政活動」ですが、前回同様に1つの分野に特化して議論すると視点が狭まってしまうので、「産業」と「市民活動・行政活動」をメインテーマとしながらも幅広くご意見をいただき、最終的な意見の整理は今回配布された資料のように事務局において行ってください。

まずは15時を目安に「産業」の審議を行い、休憩を挟んで「市民活動・行政活動」の審議を行います。最後に前回までの3つの基本目標や本日配布された取りまとめの資料も含めて再度ご意見をいただく時間を設けたいと思います。

それでは、基本目標Ⅳ「産業」から審議を進めてまいります。事務局から説明をお願いします。

### ○事務局

～資料に基づき説明～

#### ○会長

ありがとうございました。ただいま、基本目標「産業」について事務局から説明をいただきました。「産業」を中心にご意見をいただきますが、広く他の基本目標に関するご意見でも結構です。また、「産業」に関連して「将来都市像」や「4つの視点」の説明文に関するご意見がありましたらあわせてご発言いただければと思います。ご意見のある方から、挙手でご発言をお願いいたします。

#### ○委員

中小企業についてあまり書かれていませんが、新発田市の場合は中小企業が元気にならなければ活力が生まれないという事をよく言われているので、課題が3つあると思うのです。

1つは人手不足があると思います。ポイントは団塊の世代が後期高齢者になることです。それから外国人労働者については、円安で日本に来るよりも他の国へ行った方が良いという現状でこれから増えるのも難しいと思います。

それから中小企業の生産性アップが1つの課題だと思います。それはDXで解決できると思うのですが、もう1つ大事なのが「ゼロゼロ融資」が無くなることです。ゼロ金利と無担保のゼロゼロ融資がなくなるということで、これはどうしても支援体制が必要ではないかと思います。

このような状況ですので、この施策の中に中小企業の経営基盤の強化という視点を入れていただいた方が良いのではないかと思います。

それから農林水産業です。持続可能ということが大切なことなので、今はもうDXやAIなどが時代の潮流なので、そこも施策の中に入れておいた方が良くと思います。それから農業に関しては、全国的にも進めていると思いますが、植物工場によって効率的に大量生産するということを新発田市も検討しても良いのではないかと思います。

#### ○会長

他の皆様も何かご意見やご質問ございますでしょうか。

#### ○委員

「施策1 商工業」のところで、まず1つが、施策の基本方針、現状と課題とありますけれども、この●の2番目になりますが、「女性の社会進出に加え」というところが出ていますが、商工業というところで、女性の活躍というところを強調したいのだと思いますが、国が進める「働き方改革」にも少し繋がるところで、今は女性に特化しない「多様な人材」という言い方をします。例えば高齢者や障がい者、あるいはLGBTの方等が最近クローズアップされてきて、そういった方達も含めて活躍できるという部分が商工業の所だけではなく、市民活動の方にも出てくる「人権と多様性」等、あるいは、各項目のところに必ず雇用も出てくるとありますが、商工業のところでも、女性の事を言うのは良いですが、できれば「多様性がある」というような形で、もう少し幅広い方達が活躍するということを入れた方が良いのではないかと思います。

また、基本方針の次の「施策の展開」のところにもありますが、「2. 起業者、創業者の育成、持続可能な商工業環境の整備」というところでも、主な取組で「女性が活躍するために働きやすい環境を整備する」となっていますが、「女性を含めた多様な人材」という形で、少し幅広く入れた方が良いのかなと思いました。

○会長

ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。

産業と言いますと、非常に幅広い内容が含まれているわけですが、こういった視点からでも結構でございます。ご意見、ご質問ございましたら、お願いしたいと思います。

○委員

質問なのですが、「市街地活性化」のところで、施策の展開の「1. 市街地が一体となって取り組むまちの表情づくり」ということで、総合計画の方も同じ KPI を設定しており、「民間主体のイベント実施割合」と書いてありますが、少し分からないので具体的に教えていただければと思います。

○事務局

「民間主体のイベント実施割合」ということですが、こちらの設定の根拠となっておりますが、市の主催イベント、民間の皆様等との共催イベント、または民間の皆様が主体的に行っている民間主催イベント、という様なイベントがある中で民間主催のイベントの割合ということです。行政だけではなく、民間の皆様や、団体の方々からも主体的にイベント等を開催していただける環境整備という意味での割合ということで、市で把握しているイベントの中で民間が主体となっているものをできるだけ増やしていきたいというところです。市の方でやらないという事ではありませんが、そのような積極的な活動が行われる市街地環境を作っていきたいという意味での KPI でございます。

○委員

方向性としては、民間主体が中心となって積極的にイベントが行われて欲しいと考えていて、全体のイベントの中の民間主体のものという事で理解して良いでしょうか。

市民の方がぱっと見てわかるかなと疑問に思ったので、注釈を入れていただいても良いと思います。

○会長

この方針等に入っている言葉が難しいという話が前回までも出てきましたが、もし入るようでしたらそういった注釈も、皆さんが見て分かる様な表現をお願いできたらと思います。

○事務局

施策、基本目標についても、今ほどのご意見を参考にさせていただいて、市民の方が見て分かりやすい表記を心掛けたいと思います。

○委員

観光というのは、産業・文化・経済全ての領域に関わるものです。もう1つ観光というのは住民、観光客、事業者、地域を一体的にまとめる効果のある手段だと思うのです。観光というのはすごく大事だと思います。今は観光の課題としては、生産性の低さや人手不足だと思います。それからコロナ後は観光の在り方が変わっていきまして、コロナ前は団体が多かったですが、それが個人の旅行者が多くなっていて、今までは団体でショッピングをして、温泉に入って、お酒を飲んで食事をして、それ

で終わったと思いますが、これからは個人の旅行者が多くなり「ニューツーリズム」が必要だと思います。ニューツーリズムは聞き慣れない言葉かもしれませんが、個人での体験や交流ができるプログラムが必要となってきます。

また、団体旅行が少なくなると、観光業も量的拡大から質的拡大の方に移っていくと思います。今までは団体客を対象に良いものを安く提供して対応していたのですが、やはりこれからは良いものを高く提供する方向性で、利益を上げていくという事を考えなければいけない。それで戦略を作って利益を上げていくという形を考えなければいけないと思います。

やはり観光で戦略的に利益を上げていくという事を前提にして、雇用者の賃金をアップして人手不足を解消するという事が重要になってくるかと思います。やはり観光で人手がいけないというのは、低賃金、長時間労働、これが大きな原因ではないかと思います。そのあたりを考えながら対応していくことが大事だと思います。生産性の低さは、先ほども言いましたがデジタルの力で対応できると思います。団体旅行から個人旅行というのは難しい問題だと思いますが、これもデジタルで対応しないといけないと思います。個人旅行というのは、観光客のニーズが多様であるわけです。個人に焦点を当てた対応の仕方、これはデジタルの得意なところなので、これを考えていただければと思います。

それから一番大事なのは、観光地を活性化して、観光地の持続可能性、リピート客に繋げていくという事が大事だと思います。「観光客の受入環境の充実」ということで、ニューツーリズムによる体験や交流を取組の1つとして挙げていただければと考えています。

それから産業連携についてです。産業連携で一番大事な事は、「サプライチェーンの全体最適化」だと思うのです。やはりいろいろなサプライチェーンで再エネや省エネ、グリーンエネルギー、カーボンニュートラル等いろいろあるわけです。サプライチェーン全体でその最適化を図るという事が、やはり脱炭素社会とか言われていますが、その辺を施策に入れてもよいのではないかと思います。

次に市街地活性化については、先ほども話がありましたが、中心市街地と全体の市街地を分けて話すと、中心市街地の一番の課題というのは空き家対策だと思うのです。空き家というものは、人口が少なくなると必ず増えていくもので、これは1つの流れではないかと思います。

それからもう1つは、中心市街地にどうしたら人が集まるのかということです。空き家を活用することと、人がどうしたら集まるのかということの2つを考えていただきたいと思います。例えば、中心市街地であれば、空き家をリノベーションして分散型のホテルを作ることがあります。これは中心市街地の空き家を利用して、私的旅行とか長期滞在という旅行客を狙って、そこに泊まった人に対して新発田市の観光地とか街をショッピングしてゆっくり見てもらうことや、街で飲食・買い物を楽しんでもらうということを目的にして、そのような分散型ホテル構想を考えてみたらどうかと思います。

それから、中心市街地にいろいろな商店がたくさんありますが、空き家を市営住宅とかシニア住宅として活用できないかと思います。中心市街地は一定の密度の居住者がいないと、いくら観光客がいても商店街というのは活性化しないので、そのあたりを検討していただければと思います。

それから、これは中心市街地に限らず全体の事なのですが、空き家も地区の交流の場として子育てとか親子の交流の場として活用するという事も考えられますし、地区の子ども達に勉強を教える場など、例えば地区には先生の経験があり、ノウハウを持っている方が結構住んでいると思うのです。そのような人を活用して、地区の子ども達に勉強を教えてもらっても良いのではないかと思います。

それから雇用についてですが、これはデジタル田園都市国家構想の主要な柱の1つが「新しい資本主義」なのです。「新しい資本主義」というものは雇用について書いてありますが、転職しやすい労働

市場の開拓とスタートアップ支援に重点を置いています。それで成長産業への移動を促して成長力を底上げし、雇用増に繋げるという2つのポイントが書いてあるわけです。この雇用というものは、産業振興から経済活性化になる過程が大事ということで、産業振興によって生産性をアップさせて、それから賃金をアップさせて、需要増に結び付けて雇用を増やしていくという、分野横断的な対応が必要だと思うのです。それともう1つ女性の雇用について、大事なのはキャリアです。育休等で休んでもキャリアを継続できる様な制度体制が必要です。それから同一労働同一賃金についてですが、これはどうしても男性の方が賃金が高く、女性が家事とかで休むことが多くなってしまうので、同一労働同一賃金で、女性の生計力も付けておかなければいけないと思います。また、長時間労働について、これは男性も女性も同じことだと思いますが、それらを改善しないといけないと思います。それから高齢者の雇用については、デジタル分野で中高年向けの職業訓練をインターンシップの様な形で企業に派遣制度を支援するということが出ていまして、そのあたりが1つの目標として対応していただければと思います。それで最後に言いたい事は、「施策の展開」で2つしか書いていないのですが、もう1つ付け加えて、多様な雇用の機会の創出と創業の場の拡充を追加してもらえればと感じました。

#### ○会長

ありがとうございました。施策を中心にそれぞれご意見をいただきましたが、他のご意見とかございましたら伺いしたいと思います。また、今委員が発言された内容と同じ様なポイントについてでも結構ですので、お願いいたします。

#### ○委員

観光のことについて、委員もおっしゃられましたが、なかなかコロナ後は団体客が少なくなっている様に思うのです。来てくださる方に差別化と言いますか、あなただけの素晴らしい体験をしていただくという様な、最高のおもてなしをする様な観光をしていただくことが、新発田市にとっては必要なのではないかと考えております。そういう事も考えていった方が良いのではないかと考えております。

#### ○会長

ありがとうございます。先ほども申し上げましたが、この「産業」というものは非常に幅広い内容を含んでおります。どの様な視点からでも結構でございます。ご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

#### ○委員

高校生の就職の関係で、非常に雇用の求人倍率も高くなっているという事で、買い手市場みたいなところが続いているのですが、どうしても新発田市外への就職が非常に多くなっている。課題にも書いてあるのですが、魅力的な職場づくりが必要であると、漠然とした形で書いてありますが、例えば高校生、大学生が卒業して、どの様な職場に魅力を感じているのかということも深掘りしていかなないと、なかなか新発田市内での就労に繋がっていかないのではないかなと考えております。確かに賃金だけではないと思いますし、また福利厚生だけではないと考えておりますけれども、今の若者達はどの様なところに魅力を感じているのかということからは、考えていかなければいけないなと思ってお

ります。

また、少子高齢化ということで、高齢者の就職の関係であります。高齢者については、日本の労働者の中で約9割が今まで勤めていた会社での再雇用をしているという現状もあるわけでございます。再雇用になると、定年退職と同時に再雇用した時に賃金が、3割、4割とダウンして、という様な状況が続いているわけで、やはりどうしても生活があり、特に最近は年金が65歳からの受給になっているわけでございますので、我慢してでもそこに勤めていきたいという様な感覚もあると思うのですが、そもそもこの再雇用制度を作った時に、どういう形で労働者の賃金を決めていたのかというと、60歳で定年退職を迎えて、年金ももらいながら仕事を続けているという状況でした。その年金の金額と会社からもらう賃金が、現役で働いていた賃金とほぼ同等の金額になるからそれによしという様な組み方をしていたました。しかし時代が変わってきて、65歳まで年金がもらえないという事になったわけで、企業としては、昔取り決めた再雇用の取り決めの中で賃金の上積みというものは、ほとんど行っていないのではないかとこのところが見受けられます。ですので、そのあたりの対策もとっていかねば、高齢者が自由に選択できる就労というものは難しいのではないかと感じているところでもあります。

#### ○委員

今の意見に対して、今までの状況というのは分かるのですが、これから人生100年時代になると、第1ステージが学校で、第2ステージが働く期間で第3ステージが老後ということを考えると、これから100年時代になりどうしても第2ステージが長くなるわけです。第2ステージが長くなると、途中でスキルを身に付け、流動的な社会の中でスキルを身に付けて仕事を変えて、労働条件が良くなっていくという様な時代がこれから出てくると思うのです。だから、定年まで働くという人の考え方もかもしれませんが、方向性としては長い働く期間、その中においてスキルを身に付けて、新しい生産性の高い仕事に移る様な方向性に持っていく形はどうかという事を、今発言を聞いて感じたわけです。いろいろ意見があると思いますが、私はそのように考えています。

#### ○会長

ありがとうございます。この場でどっちが良いという議論をするつもりはございませんが、反する意見、同じ様な意見どちらでも結構でございますので、ご意見ございましたらご発言いただければと思います。

#### ○委員

今ちょうど働き手のスキルの問題が出たので、それに関連して1つですが、特に若年層、20代の方達で、社会経験をあまり積めてこなかった方達が多いので、そのスキルがない若者が非常に多く、これを企業の方がスキルを全て身に付けさせなければいけないということが、大変な問題になっていると思います。今までですと、ある程度アルバイト経験もあり、コミュニケーション能力もあった、というところもあるのですが、学校を卒業して一度も働いたことがない若者というのは、統計を取ると新発田市は割合として多いのではないかと感じています。これは全国的にも多いと思うのですが、多分新発田市は全国レベルよりも多いのではないかと私は感じております。というのは、私の周りに

そういう若者がたくさんいるからです。これが、今後数年の間に問題になってくるだろうと思っているので、もちろん経営者達もいろいろと考えてはいるのですが、何か若者達が就労に結びつく、ただ単にジョブトレーニングとかそういったレベルよりももっと踏み込んだ社会の勉強のようなことを、どう構築していくかという事は、1つの課題なのではないかと思います。

女性の就労というところで、わざわざ女性というのはどうなのかという事がありましたが、全く私もその通りだと思います。女性が働きやすい社会というのは、男性も働きやすい社会になるので、そのところで今あえて女性というのは、逆に差別の様に感じますし、施策のところで女性と障がい者と高齢者が「・」で繋がっていたところがあって、何故女性だけがここに入っているのかという事は、女性として少し疑問に感じました。

観光の方になります、せっかく蔵春閣が出来て、駅前から市街地への人の流れをどうにかというところなのでは、やはり新発田の街は今とても寂しくなっていて、私も多くの観光客の方にお昼を食べるところはどこへ行けばいいのですかと聞かれますが、蔵春閣を開館させたものの他の受入態勢が整っていないというところが、おそらく観光振興課だけではなくて、商工振興課等、課を跨いだ連携が必要になってくると思います。もちろん民間事業者もそこに入ってという事ですが、そういった展望をもう少し具体的に見える様に示していただけると、ありがたいと思いました。

#### ○委員

質問なのですが、観光のところ、それから産業連携のところで「スタディーツーリズム」という言葉が出てきて、なんとなく学習目的の観光のようなことだと思いますが、それが、我々がイメージするのは子ども達の修学旅行を兼ねた学習等で、この辺がどのようにイメージされているのかという事をお聞きしたいです。

また、「雇用・就労」のところで、これは施策のところで出てくるのですが、今の「高卒の新卒者の約4割が進学や就職のために市外に転出します」と載っているのですが、今高校を卒業して新発田市にどのくらい残っているのかと思った時に、4割が出ていくというのは、私的にはもっといるだろうと思っておりまして、今人口が減少していく1つの要因は、こういった方達が出ていくというのが一番大きな人口流出だと思っていますが、この4割は住民票から出した数字なのかというところを聞きたいです。実態は県外に出る、あるいは市内から新潟市に行く人もそうなのですが、住民票は残したまま出ていく人も結構いるのかなと思うのです。そうすると、イメージなのですが、ほぼほぼ高校を出ると、市外の大学、専門学校あるいは就職という形を考えると、恐らく8割くらいの高卒の人は市外に行くのかなというイメージがあるのですが、この辺の4割の根拠をお聞きしたいなと思います。

#### ○事務局

委員からご質問の1つ目、スタディーツーリズムの関係でございますが、こちらは単に修学旅行を誘致するというものではなく、地域の特徴や強み・資源を活かした、研修旅行という様な事を想定しております。1つ例を挙げますと、新発田市で今取り組んでいる「オーガニック SHIBATA プロジェクト」では、有機米の産地形成づくりをしております。「キネス天王」に入居する企業と連携し、ドローンを活用したり、または新しく機械を開発して田んぼの除草を行うなど、IT技術も活用しながら、新しい農業の形、高付加価値化を目指した農業の取組を学んでいただける様な、単に団体旅行を受け入れる



ということではなく、さらに一步踏み込んだ取組を進めていきたいというものでございます。

もう1つ若者の流出ということで、4割という数値については正確に回答したいと思いますので、確認をさせていただきたいと思いますので少しお時間をいただければと思います。

#### ○委員

少し付け加えて、今ちょうどその若い人達为新発田市から転出していき、また戻ってくるといったイメージの時に、例えば夏休み等、子どもと一緒に里帰りする様なケースがあると思うのです。私はそういった時に、例えば家族で実家に戻る時に、新幹線を利用することや、あるいはマイカーがあつてワンボックスカーで帰ってくる様なケースもあると思うのですが、例えば、中にはどうしても親が仕事で里帰りできない、けれども子どもは誰かが連れて行ってくれるのであれば、実家に行くかもしないのではと思うのです。そういう事を増やしていく施策のようなものが必要だと思っていて、例えばそれは観光の1つでもよいと思いますが、里帰りツアーの様な形で、新発田市に来ていただき、その時に昔の学生時代というか、若い時と違って新発田市は今こういう状況になっている、あるいは今どんな観光がある、あるいはどんな企業がある等、そういったところもツアーみたいな形で周ってもらえる様な事ができたらUターンしてくる1つのきっかけ作りになるのかなというイメージがあるのです。なんとなく実家に里帰りと言うと、ただ自宅に居て少しのんびりするみたいな事なのですが、中には新発田市に戻りたいという人達も恐らくいるのではないかと思います。やはりそういった人達にどう情報発信をするかという事を、あえてこちらから仕掛けていくということが必要になってくると思います。

#### ○委員

今ツーリズムの話がありましたが、やはり個人客というものは、いろいろな考え方、いろいろな計画、多様性があるわけなので、この街で何を学ぶか、というような個人客が結構増えてきているという事は、新聞でよく見ます。それはまたデジタルで情報発信等をやっていただければ良い問題なのですが、若者の流出というものは、新発田市に自分の望む学校がないことや、新発田市に自分に適した職場がないことが理由で転出するのだと思うのです。だからそのあたりは、先ほどから話が出てきている様に、戻ってくる対策に重点を置いた取組を考えていくという事が必要ではないかと思います。

#### ○委員

いろいろなところで機会があると言わせていただく様にしていたのですが、先ほどの子どもだけ里帰りしたいという事の逆で、東京の県人会ですとかそういったところのご高齢の方と会うと、新発田市出身なのだけど自分の子ども達も新発田市から出て行ってしまつて、新発田市に帰るところがないけど、新発田市に帰りたいのです。という声が非常に多く寄せられて、ホテルを取つて帰るというのも味気ないとおっしゃるのですが、そういった方達をターゲットとした受入態勢というものは、すごく需要があると思います。そういった方達は、条件さえ合えば後の自分の人生10年、最後の10年を新発田市で暮らしたいという方もいらっしゃるして、高齢になると故郷を懐かしく感じるものなのだと思うのです。そういった方が少し帰りたいとか、あるいは移住したいとなった時に、どうしたらよいのか分からないというところで止まつてしまっている、潜在的な移住したい方がいらっしゃると思いますので、何とかここを受け入れられたらよいのかなと思いました。

○委員

市町村単位でやるべきことなのか悩むところなのですが、私の立場からすると、女性が働きやすいという事は男性も働きやすいはずなのです。昨年度の国の調査で、男性育休取得率が17%で過去最高になっていて、2年後の25年には50%に引き上げるという計画を立てているわけですが、果たして今新発田市内で育休を取っていらっしゃるお父さんはどのくらいかというと、うちで160人のお子さんを預かっていて、今年出産された方が10数人くらいいらっしゃるって、お父さんが休んだと聞いたのが1件程度なのです。率だけで計算してはいけないのですが、なかなかお父さん達は忙しいなというところがあるのです。以前、千葉県調査だったかと思いますが、保育園に入るお父さん達と幼稚園に入るお父さん達の行事、園に対する協力性というところを調査した大学の先生がいらっしゃいまして、保育園の方が協力的なのだそうで、幼稚園の方がなかなか協力してくれない。PTAに参加しようと言った時に手を挙げるお父さんは保育園で、なかなか手を挙げてくれないのは幼稚園、という調査をされた大学の先生がいらっしゃり、それは少し感じている部分もあるのですが、本当は参加したかったり、協力したいお父さん達はいるはずなのですが、育休を取れなかったりというところが1つ障害になっている部分もあるかなと思います。分野違いかなと言ったことは、ここで話すべきなのか子育ての方に出すべきなのか、雇用のところを出すべきなのか少し悩んだところと、市町村がその様な取組をするレベルの話なのかが少し疑問ではあるのですが、考えてもよい事なのかなとは思っているのです。これを見ると、男性の育休について触れているところがないので、同じ男性の立場で入れてもらいたいなと思っています。

○会長

ありがとうございます。他に何かご意見等ございますでしょうか。

○委員

今とてもありがたい意見を言っていたいたので、少しだけ補足ですが、育休取得率何%、そういうところで目に見えて数字を出していただくのは、本当にお願いしたく思っております。と言うのは、例えば管理職の女性割合何%などと言うと思いますが、私も「女性をいれなければいけないから、この会議にどうしても入ってくれ」と何度も言われて、そういうところでの女性のパーセンテージを増やすということに、私はほとんど意味がないと思っています。管理職に何%居ようが、そういう事ではなく、優秀な方が管理職になれば良いのであって、女性は何人いるとかは全く関係なくて、そんな事よりもやはり、男性の育休取得率が90%であるとか、そういう事がこれから新発田市は先進的だなと思われる指標になると思うので、是非そのあたりの考え方を少し改めていただけるとありがたいなと思いました。

○会長

ありがとうございます。

最近の考え方をこの中に盛り込んで、そして発信していただくというのは、非常に大事なことです。また、外へ出ていく人を止めるのではなく、戻ってくる人をどうするかという様な話も大事な事だと感じたところです。他にご意見等はございますでしょうか。

○委員

男性の育休ですが、これの1つ大きい問題は、職場で男性が育休を取りやすいかどうか、そういう環境が出来ているか。そういう環境がないとどうしても取りにくくなるので、そういった環境を作ることが必要だと思うのです。男性も女性もどちらでも、その夫婦の考え方で「今回はどっちが取る」という様な環境になる事が望ましいなと思います。まだまだ古い慣習・慣行があつて、子どもを育てるのは女性だという様な慣行がありますので、そのあたりと職場の環境がネックになっているのではないかと思います。

○委員

少し先の長い話なのですが、新発田市に居ついでいただくということは、とても大切な事なのですが、やはり小さい頃から新発田市を好きになっていただくという事が一番大切なのではないかと思います。小中学校で「しばたの心の継承プロジェクト」ということで、お城とか寺町などを案内しているのですが、その中で、中学1年生の男子なのですが、新発田市がすごく好きで、「私もガイドをしたい」ということで、希望の星になっているので、そういう方が次々と増えてくれば、新発田市を好きになって、新発田市に住んでいただける様な人材になっていくのではないかなと思っています。

○会長

ありがとうございます。今回の基本目標がそういう人材を増やしていける様なものになればよいのではないかと思います。

それではいろいろとご意見をいただいているところですが、長時間に渡る会議でございます。ここで一旦休憩を挟みまして、続けてまいりたいと思います。それでは一旦事務局にお返しいたします。

○事務局

会長、委員の皆様、ご審議大変ありがとうございました。

それではここで10分の休憩を挟みたいと思います。15時5分ですので、15時15分から再開したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(休憩)

○事務局

それでは時間になりましたので、再開いたします。進行は会長より、お願いいたします。

○会長

それでは、「市民活動・行政活動」の審議を行いたいと思います。基本目標「市民活動・行政活動」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

～資料に基づき説明～

## ○会長

ありがとうございました。これから「市民活動・行政活動」を中心にご意見をいただきますが、広く他の基本目標に関するご意見でも結構でございます。

また、「市民活動・行政活動」に関連して「将来都市像」や「4つの視点」の説明文に関するご意見がありましたら、併せてご発言いただければと思います。それでは、先ほどと同じ様にご意見のある委員から、挙手でご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

## ○委員

「市民参画と協働」の施策の2と3に、「協働のまちづくり」や「協働を推進するため」と書いてあるのですが、「参画」という言葉を入れたら良いと思います。「参画」という言葉と「協働」という言葉は内容が違いますので、「参画」というのは行政が主体の考え方や理念に共感した市民が、必要に応じて加わることを「参画」と言っているわけです。それから「協働」というものは、行政と市民両方が主体で、自主的に活動してお互いに対等であることが基本になってくるわけです。この2と3は「協働」だけなのですけど、「参画」も最初に入れたらどうかと思いました。

続いて、「多文化共生」のところで、これは表題を変えましたが、私は今まで通りの方が良いかなと思います。それで、この施策はやはり、ダイバーシティ・インクルージョンの社会構築を目指したまちを目的とする様な施策の方が良いと思います。例えばどんな特性の人でも、誰もが自分らしく生きられる社会、もちろんこれは訪問客も含めますが、それを目指した多様な共生と交流、要するにこれはウェルビーイングの社会を強調した方が良いと思います。関係人口というものは、どちらかというと観光の方に持っていったらどうかと思います。ニューツーリズムを通して観光客をリピート客に結び付けて、関係人口を増やして、移住・定住に結び付け、人口増と地域活性化に繋げるということです。ここの主題はウェルビーイングのまちを主体にした内容にしたらどうかという事を感じています

それから「人権と多様性の尊重」ですが、これはやはり「人権の尊重」の方が良いかなと思います。多様性の尊重という事は、人権と同じなのです。だからこれは、「人権の尊重」という事で、今、一般社会では、「人権」という言葉は漠然とした言葉で、一般的に使っていますが、やはり人権という事に一歩踏み込んで、その人権の重要性と必要性について、そのような表し方をした方が良いと思います。施策については、人権尊重のまちづくりに向けた取組の内容は色々やっていると思いますが、そのあたりを掲載した方がよいかなという事を感じました。

それから「同和行政・同和教育」です。私は京都などにも住んだことがあるのですが、その辺に比べて、新発田市は同和に関してあまり耳にしないのです。これは多分他の人もそう感じていると思います。むしろ障がい者などの方が大事で、同和を1つの施策とするよりも、人権の中に同和という問題を含めても良いのではないかなと思いました。

それから「情報技術・情報セキュリティ」について、「施策の展開」に追加した方が良くと思うこと、情報技術で大事な事は、人材育成、人材確保だと思うのです。これは今どこの地域でも不足しています。それから、これは最も重要だと思いますが、情報通信基盤の強化も施策の中に入れておくべきだと思います。

それから「行政運営」について、これは「施策の展開」を考えたのですが、特に行政運営として「近隣自治体との連携強化」を入れたらどうかと思います。それから、私も肌で感じているのですが、「自治会の支援・育成」はやはり、住民主体のまちづくりに向けた方向性になっていますので、その基本

となる自治会の支援とか育成を施策の中に入れたらどうかと思います。

また、審議会の委員の中に、自治会というのは身近な生活の場であるので、その代表も一人入れてもらえたら、より身近な問題として色んな意見が出るのではないかと感じました。

#### ○会長

ありがとうございました。

この「市民活動・行政活動」というテーマになりますと、どこの基本目標に入れてよいのか迷う様なものも出てまいりますが、あまり縛られず、自由にご発言いただければと思います。その後は、事務局がどこに入れるのかご苦労されるかと思いますが、事務局に整理の方は任せていきたいと考えます。ですので、自由にご発言をいただければと思います。ご意見ありましたら、よろしくお願いいたします。

#### ○委員

今自治会の話がありましたが、そのあたりで2点お話ししたいと思います。まず1点目は、自治会が昔の単位のままずっと来ているわけです。非常に人間も少なくなってきたいて、それで維持するのも難しくなっている。色んな歴史もあって、なかなか一緒になれないこともあるとは思いますが、そこは行政の方から働きかけるなどして、町内会をまとめて、少し大きな単位にしていくと、もう少し動きがよくなるのではないかという事は、今感じているところです。

それから、地域の担い手不足について、確かに人口減少でいるのですが、中学生や高校生も地域の住んでいる人材ですので、そういったところに働きかけていく事も大事なかなと思っています。今年の台輪に中学生が結構出ています。保護者の許可を得て出ていると思いますが、そうやって新発田の文化に触れるという事はとても大事な事だし、決してその町内の子だけではなくて、周りの色々なところから連れてきて、一緒に出ようよという形でやったと思います。そういったところで地域の人材を育てていくということが大事なのではないかなと思っています。また、例えば地域によっては神楽をやっているなど、色々な文化があるわけですが、そういったところも中学生・高校生を巻き込んでいくということは大事なかなと思っています。そうすると、またUターン人口が増えてくるというところにも、先ほどの話になりますが、続いてくるのかなと思っています。

台輪の方に戻りますと、お囃子なんかも人手が足りないと言っていますが、私が子どもの頃は町内で中学生・小学生を集めて、お囃子の練習をしていたのです。その様な事を復活させていけば、もっともって地域の担い手は出てくるのかなと思っています。

#### ○委員

今自治会のお話が出たのですけれど、私が住んでいるところは本当にまちなかなので、おそらく新発田市で一番過疎化している地域だと思います。自治会がもう立ち行かないくらい高齢の方ばかりで、一軒一軒抜けていくわけです。もう回覧板は配れないので、頼むからやってくれと言われると、今までは10年に1回くらいやればよかったものが、すぐ来る様になり、やはり高齢の方が、どさっと広報しばたなど多くの配布物が届くのを、一軒一軒配ったり、町内会費を徴収したりするというアナログな作業がうちの町内会ではもう立ち行かなくて、あと2、3年で毎年私がやるのではないかという事になっています。それは、他のところでもこれからどんどん起こってくることで、今情報のところ

の「施策の展開」のところに、行政手続きのオンライン化であるとか、キャッシュレス決済とか書いてあるのですが、まずは町内への広報の発信の方法、それを自治体が担っているというこの負担感が、多分皆さんが想像するよりも非常に大きい問題で、ここを重点施策に入れていただきたいと私は思います。そこから情報のDX化を進めていただきたいと思います。

#### ○委員

今の委員がおっしゃっていた事が、多分各自治会でも同じ様な状況が顕著に表れていると思うのです。特に広報誌なども、自治会費を貰う時に広報誌いらないから自治会費を免除してくれ、といった話まで出ていたりするのです。これがかなり班長さんの負担になっていて、高齢化の問題もあるのですが、こういう状況がずっと続いていると、自治会自体が成り立たないと言いますか、そういう情報が行かない様な形になってくるのは間違いないと思います。そういう意味では、新発田市はこれからDXを進めていくということですから、そういったところでも、例えば行政サービスではないかもしれませんが、町内会の会費をキャッシュレスで決済できる様にする等、何か新発田市として、各自治会にこういう形を提案するという事です。そういった事も含めて、非常にスムーズに情報も流れるし、そういった自治会活動がやりやすくなる様な形、誰でもできる形を、これから作っていく必要があると思うのです。そういう意味で、先ほどの自治会の単位の話も出てくるのですが、私は中曽根町に居まして、非常に広いのです。全部で20何班あるところなのですが、それも班ごとに、町内会費だけではなく各種の寄付金の徴収というのは非常に負担になっていて、これは毎年決まったものがあるのです。例えば緑の羽とか、あるいはお祭り等です。これは今皆さんにアイデアを出してもらっていて、1年間にこういう寄付が来るだろうという事で、事前に一括で預かる様な事をやっているところもあります。そしてできるだけ班長さんの負担を減らそうということは非常に良い取組だと思いますが、例えば、そういった事も含めて何か各地区でいろいろ取組んでいる事、こうやると良いという情報も、できたら市の方でまとめていただき、それぞれの地区がこういう事をやっている等、その様な情報も入れながら、尚且つ、デジタルでそういう情報を発信、あるいはキャッシュレスでお金を徴収するといった形を進めていくことができれば、新発田市がそのような施策を積極的に進めていただければよいのかなと思います。

#### ○委員

私も同じ事を感じていまして、行政の立場として自治会というのは任意団体なのです。それで、あまり手を出せないという考え方が、行政にはあるのではないかと感じています。時代が変わって自治会の重みというものもだんだん増えてくるので、自治会と一体となった進め方をする事が大事ではないかと思います。

私も市の職員の方に聞いたのですが、あれは任意団体だからという事で、基本的には自治会に皆さんに任せているという話も聞いた事もあるので、昔はそれで良いかもしれませんが、もう時代が変わってきていますので、是非そのあたりを検討願えればと思います。

#### ○会長

ありがとうございます。他にどのような視点からでも結構ですので、ご意見等ありますでしょうか。

## ○委員

先ほど同和行政の点について指摘がありましたが、私が同和教育関係に関わって15年近くなって感じていることは、部落差別の事について、単純に差別があるかないかという、現在の事ももちろんそうなのですが、関われば関わるほど歴史の問題も関わってきているという事がよく分かるのです。歴史観が変わったくらいで、私は新発田市の正の面と負の面がもちろんあると思うのですが、負の面を分割させて隠す必要は全くないと思っています。こういう問題には正面から皆で考えていかなければいけないのではないかと考えています。単純に新発田市の歴史の事も含めて考えれば、私は人権の中に入れるべきではなく、同和行政は同和行政として、考えた方がよいかなと思っています。その中で、小中学校の先生方はすごく頑張っていて、地域外から来られる方もカルチャーショックを受けるくらいで、考え方を改めて、どう向き合っていけばよいのかという、根本的な教育観の問題も変えられるくらいプラスの効果があると思っています。同和教育の研修の時は、皆さん本当に熱心に聞かれて、毎回変わるなと思って感じているので、私はこのまま同和教育の推進という形で書いていただきたいと思っています。その中で、この資料を出したのは担当課だと思うので、担当課と話をしていたきたいというのが、現状の中で1番最初の●が「部落差別の問題を過去のものとして捉えている傾向にあります」、これは現状で間違いないと思いますが、それに対して課題ということで、最初の●が来るということで、「今ここで起きている問題」、これはこれでそうだと思います。その後に書いてある「自分事」というワードが、結構学校の先生方がすごく大事にされている言葉なのです。子ども達にも伝わりやすいパワーワードで、自分達の事として捉えましょうという形でやると、小中学生はすごく理解しやすいので、この文章の中での対としてはこれでよいと思うのですが、「自分事」というパワーワードを「」（鍵括弧）で書くべきなのか、別に設けて「自分事」を出すべきなのか、そこは担当課とも話をしたいのですが、この「自分事」というワードをもっと大事にしたいという個人的な思いです。先生方はすごく一生懸命教えてくれているなど、小中学校の先生方が教えてくださっているのは、自分事にしましょうというという事で、これは同和教育だけではなく、普段の生活でも相手の立場に立って考えましょうという時に「自分事」というパワーワードを使って、大事にしている言葉なので、そこは文章の中でも強調していただけないかと感じています。

## ○会長

ありがとうございます。1つの課題に対して複数の意見が出て結構でございますので、ご意見がございましたらどうぞご発言ください。

## ○委員

行政サービスに関しての意見なのですが、いわゆる暮らしている人達の立場によって行政の行っている問題の捉え方というものは違うと思っています。共通の課題についてはごみの収集の問題や、雪が降れば除雪の問題ということがありますが、子育て世代については子育ての問題、子育てが終わったところについては、その関心が全くなくなるので、世代間によって行政に求めてくるものが変わってきていることは当然なのかなと思っています。その中で新発田市としてどんな行政サービスがあるのかということも、広報誌だとかホームページだとか、SNS云々と書いてありますが、住んでいる新発田市民の中で、こういった行政サービスがあるのかということの気づきの場所というものも作っていただければいけないと思います。確かに広報誌か何かには書いてあるのですが、100人が100

人とも隅から隅まで見ているかということ、なかなかそういう形にはならないのかなと思っておりますし、そういった中で、やはり市民が不安に思ったこと、困ったことについては、やはり相談の窓口というものがなくなってくると思いますし、当然市の方も設置をされて、対応されているということですが、よく耳にするのが、例えば市役所に行って、その相談コーナーのところに入っていくと、誰が見ているかわからない。近所の人が見てる、あの人がここの相談窓口に行っていたよということになると、やはり二の足を踏むという話も聞くわけです。なので、全然関係ない様なところに窓口を設置して、利便性のよいところで相談窓口を設置していくという様なことも必要になってくるのではないかと思います。市民が困った時に気軽に相談に訪れられる場所の設置が必要になってくるのではないかと思います。

#### ○会長

ありがとうございます。

「市民活動・行政活動」という事で、本当に広い範囲になるわけですが、いろいろ考えられていること、疑問に思われていること、これが載っていないということがあろうかと思います。何かございましたら、ご意見いただきたいと思います。また、広い範囲で書かれておりますので、ご質問でも結構でございます。

#### ○事務局

先ほどの「産業」において、樺沢委員から出た高卒者の4割が県外に出ていくという件について、回答が届きましたので、少しお時間を頂戴したいと思います。

4割の根拠ですが、ハローワークにおける令和3年度末時点の新規高等学校卒業生の職業紹介の状況調べの中での数値ということで、内容としましては高卒求職者が200名いるうちの、ハローワーク管内、厳密には胎内と聖籠も入りますが、ハローワーク管内に就職された方が119名、県外を含む管外に出られた方が81名ということで、約4割としているということでございましたので、報告とさせていただきます。

#### ○委員

ハローワーク調べという事は、進学者の人数は入っていないという理解でよろしかったでしょうか。

#### ○事務局

手元の数字では、高卒全員で1,368名のうち、高卒求職者が200名いて、そのうち4割がという事でございます。

#### ○委員

そうすると、先ほど委員が指摘した様に、やはり実質市内から純粹に出ていく、進学も含めて出ていく人数というものは、もっと多いと私達は認識した方がよいということで、間違いはないでしょうか。

#### ○事務局

その様な理解になるかと思います。



○委員

今の数字で、1,368名というものは、当然新発田市だけではないですよ。管内の高校の周辺から来ている人達も含めての数字になると思うので、そのような事からしても、就職する人がこれだけだから、残りはほぼ進学かなという感じがするわけで、4割ではなくて相当な数なのかなと思います。毎年新発田市だけだとどうなのですかね。例えば毎年小中の各学年が段々減っていて、大体700人前後かなと思いますが、そういう人達が高校3年になって、卒業してどうなるのかという話なので、就職の数が新発田市以外の人達も入れるとこれだけなので、相当な数が出て行っているかなという感じはします。

○委員

先ほども少し関連した事を言ったのですが、高校を卒業して就職以外で新発田市から出ていくというのは、新発田市に受入態勢がないからだと思います。大学にしても、魅力的な大学がない、既存の大学の定員も少ない、だからそのあたりは、先ほども話が出ましたが、出ていくのはしょうがないことで、だから戻る方に力を入れるという事は、新発田市がそういう状態だから仕方がない、出ていく人がたくさんいるという認識を持った方がよいのではないですか。

○会長

ありがとうございます。

高卒の多くが市外へ出ていくということは、数字から見えてくることですが、それに関しましていくつかご意見がございましたが、関連でも関連でなくても結構でございます。まだご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

今の高校を卒業してほとんどの方が市外に出ていくというお話ですが、これは「仕方がない」という言葉を多分使ってはいけないと思うのですが、仕方がないのではなくて、私はここが100%でも良いと思っていて、18歳は旅立ちの時なわけで、いろいろな可能性を求めて18歳の若者はやはり広い世界に旅立って行くべき時なのだと思うのです。それを「仕方がない」というネガティブな言葉で括らないで、行ってらっしゃいと言う時期なので、そこでいろいろな経験を積んで、武器を持った状態で新発田市に帰ってきてもらいたいという事だと思うのです。うちの子ども達ももちろん18歳で県外に出まして、全然帰って来ないのですが、帰って来なくてもよいと思っているのです。いろいろな所で自分の能力を発揮してくればよいわけであって、ですので新発田市出身者ではない人が、逆に新発田市に来たいと思ってもらえる様な、新発田市出身者が帰って来て欲しいだけではなくて、新発田市出身者ではない人が新発田市で何か仕事をしたいとか、起業したいという様な可能性を感じてもらえる様なまちにするという事が目的なのではないかと思いました。

○会長

ありがとうございます。

今議論いただいております「市民活動・行政活動」に関する内容でございますが、非常に幅広い内

容でございます。本日は「産業」と「市民活動・行政活動」についてということでご意見を賜っているところでございますが、前回まで審議いたしました「生活・環境」、それから「健康・医療・福祉」、「教育・文化」もでございます。冒頭で事務局の方からお配りいただいた今までの意見一覧の資料もでございます。それも含めまして、ご意見がございましたら、ここでいただきたいと思いますが、今一度資料にさっと目を通していただきまして、全体を通してでも結構でございます。「市民活動・行政活動」はもちろんでございますが、他の分野に関しましてもご意見等ございましたら、お伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○委員

ざっくりしたイメージですが、「住みよいまち日本一」ということもそうなのですが、ここに住むという事がまず1つ、そして、いろいろな方々が新発田市に来ることが大事なのだろうということ。ここで魅力とか価値を少し熱していただくという意味では、どの分野というわけではないのですが、特にこれからコロナがようやく落ち着いてきて、いろいろな人とか物が動き出している時に、新発田市にはどういう人達が来るのか、観光だけではなくて当然仕事で来ることもあります。国内だけではなくて、海外からのインバウンドの話も出ているわけなので、単に観光だけではなく、企業間の海外とのやり取りや、そういうものも少し活発になっていって欲しいなという気がするのです。新発田市に定住していただくための施策みたいなものはいろいろと出てくるのですが、企業も産業も含めてこれからどういったものが発展していくのか、且つ、新発田市でどういうものがあるのか、そういうイメージも持ちながら、人とか物というか、そういうものがどんどん新発田市に集まってくるうえでここに住みたいと思うとか、ここがどういうまちだとか、それは多分比べるものがないとダメだと思うのですが、今いるところよりも新発田市に行ったら良かったという形、そういうイメージになっていくと思います。そういったイメージの中で、いろんな施策が出てくるかなと思うのですが、今グローバルな時代になってきており、来月の31日から新潟空港も韓国との便が始まるので、これはチャンスなのではないかなと思います。国内外問わずいろんな分野の人と物の交流をどんどん増やしていく、これはこの計画の中だけではなくて、施策的にそういう事が多分これから必要になってくると思います。そのうえで、「住みよいまち」をどうイメージするかという流れになっていくと思いますので、我々審議会はこれで終わってしまうと思いますが、できれば行政の方達に、そのあたりの事ももう少し盛り込んでいただいてもよいのかなと思います。非常にざっくりした話なのですが、広くグローバルというか、そういった視点も計画の中に落としていく。計画というのは、やはり作ったからにはまずやるという事も必要なのですが、あまりにも当たり前な事や、少し頑張ればできるという事ももちろん必要ですが、それ以上に少し高い目標を立てるというか、それも必要なのではないかと思います。

#### ○委員

少し前の話で、転勤で新発田市に来られた方、家族で来られた方がいたのです。すごく海も近いし、山も近いし、本当に住みやすいまちだと言って喜んでいらっしゃったのですが、最近は疑問に思うところがあり、まちの中にスーパーも無くなり、お店も無くなったので、車でなければ生活できない様な状況になっていますので、もう少し新発田市のまちなかを活性化していただくには、そういう事から始めていただいて、多くの方に来ていただける様なまちにしていきたいと考えております。

#### ○会長

ありがとうございます。他に何かご意見等はございますでしょうか。

#### ○委員

基本構想についてなのですが、やはりまちづくり総合計画というものは、最上位計画としての位置づけであり「総合戦略」というものは、それに基づいて戦略を考えるというものだと思うのです。総合計画の中に分野横断的な戦略を掲げる様な形にした方がよいと思います。総合計画はどうしても基本目標という縦割りがあるので、分野横断的なもの、戦略として必要なものを総合計画の中に含めるということです。例えば、新発田市の経済を支える中小企業の振興プロジェクトとか、そういう戦略的なものもあると思うのです。それから、Society5.0の実現に向けた取組の推進プロジェクト、そのようなものを総合計画の中に、大きい内容で結構なので、そのあたりを入れておけば戦略としての位置づけというものがはっきりするのではないかという事を感じています。

#### ○会長

ありがとうございます。広い範囲の話でも結構でございますので、このような機会でございます。何かご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。

#### ○委員

話が戻ってしまうのですが、市街地活性化のところで、先ほど申し上げればよかったのですが、「まちの表情づくり」というところで、「民間主体のイベント実施割合」というのが、現状値 58%となっていて、これを令和 9 年度には 80%、13 年度には 85%まで引き上げたいという目標値が記載されているかと思います。今民間主体のものが 58%、約 6 割あるということなのですが、実際に民間主体でイベント実施したいと思った時に、例えば札の辻ラウンジを使いたいとなると、前に比べて使いづらくなっていて、新発田市の共催をいただかないと高い会場費を払わなければならないとか。前は自由に使えたのですがこのあたりがネックになって、また、市の方針も少し変わって、前はもう少し緩やかに共催をいただけたものが、非常にその基準が厳しくなってしまったという状況があるかと思います。なので、民間主体のものをもっと 80%まで引き上げたいということであるならば、もう少し市民が自由に活動できる自由度を広げていただけたら、そういう事が活発に行えるのではないかと思います。

#### ○委員

第 1 回の会議の説明から気になっていたのですが、審議会の委員として、何を答申したかという事は、やはり委員の一員として知らなければならないと思っているのですが、それは連絡いただけるのですか。

#### ○事務局

本日の最後に事務連絡をさせていただく予定としておりましたが、答申は 10 月 11 日として調整を進めております、本審議会終了後、正副会長の方に答申案の作成をお願いするわけですが、その前に皆様に情報を展開させていただき、答申案に対して皆様からご確認いただくき、再度ご意見をいただ

くお時間を設けさせていただきたいと考えております。また、そこでのご意見は正副会長の方にお届けさせていただき、ご確認いただいたうえで、答申をいただきたいと考えております。

○委員

事前に委員間で共有が図られるのであればそれで十分です。承知しました。

○会長

他にご意見はいかがでしょうか。それでは副会長の方からお願いします。

○副会長

私がこれからお話するのは、基本目標Ⅲの「教育・文化」について、感想になってしまうかもしれませんが。1つは、学校教育の事なのですが、皆様もご存知の様に各小中学校では特色ある取組をされて、それぞれの学校で成果を挙げています。こういう事をやはり、私達市民は「よかったね」と、そういう声を発していく事は、非常に大事なので、批判はよく出ますけれども、よくやったと、頑張っているという声については、非常に小さいのです。それをもっと大事にしていかなければならないなと思います。それには、以前流行した言葉である地域でのワンチーム、結束、これをやはり大事にしていかなければならないと思います。ばらばらで対処しては効果が薄いと思います。私の経験からしても、やはり1つになって取り組むという心構えが大人にないと、机上の話に終わってしまっ、先に進まないという例が非常に多いので、私達は心を改めていく必要があるのではないかと常に考えています。

それから2つ目は、この前お話が出ましたが、部活動の地域移行の問題ですが、スポーツ庁と文化庁の方針を受けて、令和8年度から中学校の部活動の地域移行について諮問されています。この前、委員からも少し触れられていましたけれども、新発田市も検討委員会を設置して、今協議を進めている最中だそうでございます。大人の議論だけではなく、本当に子どもの事を考えて、子ども達が恵まれたスポーツ環境で育まれる、そういう大人の知恵を是非出していきたい。期待をしています。その様な事を常々考えていましたので、発言をさせていただきました。

最後は少しずれますが、お礼を申し上げたいと思います。これまで3回に渡って審議会を行いました、その審議会の資料を準備いただいた関係者、そして事務局、大変な労力を必要としたのではないかと考えていますが、その努力に心から感謝を申し上げたいと思います。そのために、今日はこうして3日間3回に渡って私達がいろいろ議論を戦わせたわけですから、この資料の準備をしていただいた皆様に心から感謝を申し上げたいと思っております。従って3回の会合は、ご存知の様に非常に活発な良い意見がたくさん出ましたし、稀に見る良い会だったと思っていますところ。本当に有意義な会となりました。きっと明るい話題の輪が広がる、そういう新発田市になるでしょう。そういう事を3回の会を通して深く思いました。これから大人の本気度が試される、そういう時代に入ったなと思っています。本当にご苦労様でございました。ありがとうございました。

○会長

どうもありがとうございました。本日の審議をここで終了としたいのですが、いかがでしょうか

本日の審議で出ましたご意見も基本構想に関すること、基本計画に関すること、個別の事業に関することなど、様々だったと思います。事務局はそれぞれのご意見がどこに該当するものなか、よく整

理するようお願いします。また、事務局での整理が終わりましたら副会長と私の方で答申をまとめて市長へ手交させていただきます。これまでの審議の経過を見ておりますと、基本構想案として「概ね妥当」であると判断しておりますが、各委員からいただいた各分野への専門的なご意見をしっかりと「基本構想」または「基本計画」に反映していくよう市長にお伝えしたいと考えております。

答申案は事務局を通じて事前に皆様にも御目通しいただきたいと思いますので取りまとめにつきましては御一任ください。

以上で審議を終了します。進行を事務局にお戻しします。

どうも皆様ありがとうございました。

### (3) 閉会

#### ○事務局

会長、そして委員の皆様、大変ありがとうございました。

閉会にあたりまして、みらい創造課長の樋口よりご挨拶を申し上げます。

#### ○事務局（樋口課長）

委員の皆様には、3回にわたり、また各回3時間弱の長時間のご審議ありがとうございました。

当市はこれまで二階堂市長の「住みよいまち日本一健康田園文化都市・しばた」の実現に向けて市政運営を進めてまいりました。昨年の市長選後も二階堂市長からは「将来都市像」の御旗は変えないとの方針を受けておりますが、それでも国が毎年発表する「骨太の方針」などを都度、反映させながら毎年度のローリングを行ってきました。常に国・県の状況を勘案しながら、まちづくりのトレンドに乗り遅れない、タイミングを逃さないよう努めてはおりますが、一番大切なことは、ウェルビーイングというご意見もいただきましたが、当市に住む方、働く方、関わる方たちにとって「住みよいまち」「すごしやすいまち」であることであります。

そのような観点からも、市民代表であり、各分野のご専門でいらっしゃる皆様からのご意見は大変貴重なものであり、今後、計画策定を進める中で今回のご意見を反映させていただきたいと思っております。

今月をもって審議会委員任期は満了となりますが、これまでの総合戦略の検証、今回の審議会を含め、多大なるご協力に感謝申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

#### ○事務局

ありがとうございました。

以上をもちまして、第3回新発田市まちづくり総合計画審議会を終了いたします。お疲れ様でした。